様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2013～2014
課題番号：２５８８４０３９

研究課題名（和文）レッド･ウェーヴ･アートの拡大過程とオセアニア的集合性の構築をめぐる人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Inquiry into the Expansion of Red Wave Art and the Construction of Oceanic Collectivity

研究代表者
渡辺　文（Watanabe, Fumi）

立命館大学・政策科学部・助教

研究者番号：３０７１４１９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、1990年代よりフィジーを中心に発展してきた絵画芸術のスタイルや世界認識（「レッド･ウェーヴ･アート」）が、オセアニア島嶼域各地へとひろがっていく動態の追跡および分析をおこなった。フィジー共和国、ニューカレドニア、ヴァヌアツ共和国、パラオ共和国、グアム、米国ハワイ州での参与観察、インタビュー調査、文献資料・画像資料収集を主とした現地調査や、収集資料を対象とした画像分析をおこなったほか、芸術人類学という理論的基盤を発展させるための文献研究をおこなった。

研究成果の概要（英文）：　Certain styles of visual arts and the worldview (“Red Wave Art”) has developed since 1990s in Fiji, which is now expanding toward the whole Pacific Islands region. This research has aimed to track down and analyse this dynamic expansion. During the project, it conducted participant observations, interview surveys, and acquisitions of both documents and digital pictures in Republic of Fiji, New Caledonia, Republic of Vanuatu, Republic of Palau, Guam, and State of Hawaii (United States of America), while also conducting the document researches in order to develop its theoretical framework of anthropology of art/s.

研究分野：人文学

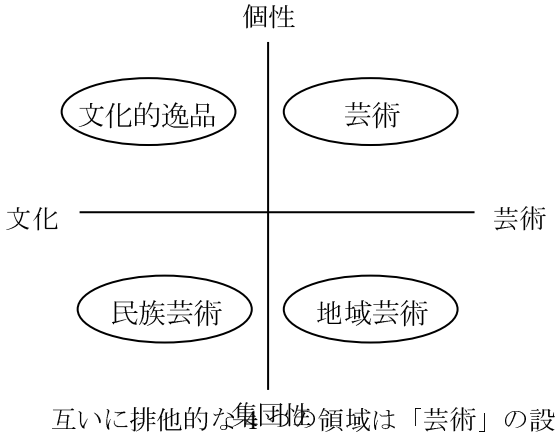
キーワード：人類学　芸術人類学　オセアニア地域研究　地域主義　図像

１．研究開始当初の背景

（１）個と集団をめぐる芸術の人類学の問題

狭義の「芸術」が西欧近代の特異な歴史的背景の上に成立したことは、人類学的にはほぼ合意事項となっている。そのうえで、これまでオセアニア島嶼域における芸術活動は、西洋芸術と対置されるかたちで、集団的な民族芸術や地域芸術としての側面が強調されるか、逆に西洋芸術システムに従属する亜流の芸術とみなされてきた。

このような見方の背景には、個人／集団、文化／芸術という二者択一に立脚した、モノの分類作業が指摘できる（下図）。



互いに排他的な4つの領域は「芸術」の設定を先行としており、他の3領域は「芸術」との関係から分類される。そして、オセアニア島嶼域の芸術は、その地域的集団性にもとづいた新奇さに価値を見出されるか（＝地域芸術）、地域性から離床させた個人の営為として解釈されるか（＝芸術）という、二者択一状況のなかで固定化されてきたのであり、この分類作業は、非対称的な権力関係のもとで進行してきたことが指摘されている[Marcus and Myers 1995; クリフォード 2003 など]。

（２）＜集合性＞への着目

1990 年代より、オセアニア島嶼域に出自をもつ者が中心となって、レッド･ウェーヴ･アートとよばれる汎オセアニア的な絵画芸術を発展させてきた。研究代表者は中心地であるフィジーにて合計約 25 ヶ月（2004 年～2012 年）のフィールドワークをおこなった結果、まず、レッド・ウェーヴの成功は、地域芸術を確立しようとする制度や言説によって裏づけられていることを明らかにした。ここには①真正性の確保、②マーケット戦略、③政治的地域主義の創出、という力学がはたらいていることを考察した。他方でアーティストたちの制作実践からは、みずからの名に立脚した「自分の作品」を制作することをめざし、地域芸術の集団的な担い手として位置づけられることを拒否する姿が明らかになった。

このような状況を集団と個という二項の対立としてとらえる既存の議論を乗りこえるべく、代表者はあらたに＜集合性＞という概念を導入し、本研究の基盤とした。

２．研究の目的

オセアニア的＜集合性＞に立脚するレッド･ウェーヴ･アートは、成熟期を迎えた現在、島嶼域を中心にオセアニア地域各地へと次つぎに広がっている。本研究は、第一に、発展のとりわけめざましいいくつかの地域を中心に、各地で広がる絵画作品の画像収集をおこない、レッド･ウェーヴ･アートの影響を分析することを目的とする。また可能なかぎり、制作現場や流通過程への人類学的参与観察等をおこないながら、＜集合性＞を軸とするレッド･ウェーヴ･アートの拡大・構築過程の文脈を解明することをめざす。

３．研究の方法

研究方法は（１）文献研究による理論的基盤の発展、（２）現地調査による一次資料の収集、（３）画像分析、に立脚する。

４．研究成果

本研究の成果概要は以下のとおりである。

（１）文献研究

芸術人類学、オセアニア地域研究、生態学的人類学、図像研究、地域主義政策を中心に文献の収集および研究をおこなった。とりわけ、美学や芸術論、図像研究における議論を人類学の潮流と綜合するための理論的考察をおこなったほか、オセアニア島嶼域をはじめとする物質文化にかんする文献資料を渉猟し、本研究が立脚する芸術人類学理論の発展をめざした。また、地域芸術のスタイルという類型概念の成立と集合性との関連性や、現代芸術という形式がオセアニア島嶼域において確立していった歴史にかんしての考察を深め、取得データを理論的に位置づけるための基盤を整えた。

（２）現地調査

①パラオ共和国におけるフィールドワーク

期間：2013 年 12 月 25 日～2014 年 1 月 4 日

主にストーリーボードと呼ばれる物質文化／作品などを対象とした画像収集および制作過程の観察をおこないながら、そこに現われている図像的特徴とレッド･ウェーヴ･アートとの共通項にかんして考察をおこなった。また、オーラルヒストリーにおいて物質文化の担う役割にかんする知見を深めた。

②グアムにおけるフィールドワーク

期間：2014 年 2 月 20 日～25 日

主に観光市場で流通する商品に用いられている図像の観察・記録をおこない、そこに現われている図像的特徴とレッド･ウェーヴ･アートとの共通項にかんして考察をおこなった。また、先住民（チャモロ）の物質文化における特徴的図像にかんする資料収集

をおこなった。

③米国ハワイ州におけるフィールドワーク
期間:2014年3月14日～30日／2015年1月22日～2月19日
2014年の調査では、ハワイ州立博物館を中心として展開する現代アートシーンにかんする調査をおこなった。とりわけ、絵画芸術作品の画像収集をおこなったとともに、特定の主題やモチーフが多用される背景にかんするインタビュー調査や参与観察をおこなった。
2015年の調査では、土産物や各種商品図像をおもな対象とし、レッド･ウェーヴ･アートの影響にかんするデータの収集・分析をおこなったほか、図書館・文書館にてオセアニア島嶼域の地域主義にかんする資料を収集した。

④フィジー共和国におけるフィールドワーク
期間：2014年8月21日～9月1日
レッド･ウェーヴ･アートの本拠地であるスヴァ市やその近郊にて、制作者をはじめとする関係者を対象に参与観察をおこなったほか、あらたに制作された絵画作品のデジタル画像を収集し､約3年間の変遷を分析した。また多くの良質な画家が輩出するスヴァ市近郊の貧困地区にて、生活実践と集合性の関連性にかんする参与観察をおこなった。

⑤ニューカレドニアにおけるフィールドワーク
期間:2014年9月5日～8日／9月12日～15日
チバウ文化センターでの調査を中心に、先住民（カナク）やオセアニア島嶼移民の絵画制作活動におけるレッド･ウェーヴ･アートの影響にかんするデータの収集・分析をおこなった。

⑥ヴァヌアツ共和国におけるフィールドワーク
期間：2014年9月8日～12日
首都ポートヴィラに位置する土産物マーケット（絵画作品を含む）やヴァヌアツ国立博物館を中心に活動をおこなうレッド･ウェーヴ関係者や現地アーティストをおもな対象とし、現地の絵画制作活動におけるレッド･ウェーヴ･アートの影響にかんするデータの収集・分析をおこなった。

今後は、各地にて制作過程の社会的文脈や、流通過程構築の経緯にかんするさらなる調査が求められる。とりわけ、オセアニア島嶼域においては「芸術」領域の曖昧さが、図像の流通や形成をめぐる特徴として浮かびあがってきたため、今後は絵画作品にかぎらず、広く物質文化や商品を対象に含めた調査が必要である。また、集合性にかんする議論を発展させるために、各地の生活実践との関連性を調査する必要がある。

（３）画像分析
現地調査をつうじて、レッド･ウェーヴ･アートとの関連が推測される図像のデジタル画像データを、合計約290点収集した。そのうち絵画芸術として位置づけられる作品画像は約130点であり、画像分析はこれらを対象とした。分析方法としては、これまでに代表者が提起してきたモチーフおよびスタイルという分析概念を用いながら、作品群における共通項を明らかにした。そのうえで、共通項からはずれていくスタイルの動態を明らかにした。
今後はさらに、これらの結果を地理的配置と関連付ける作業を進めるほか、作者間におけるモチーフやスタイルの共有／占有がどの範囲で起きているのか、その範囲を実証的に解明し、集合性との理論的接合をおこなう必要がある。

＜引用文献＞
Marcus, George E. and Myers, Fred R., eds., 1995. *The Traffic in Culture: Refiguring Art and Anthropology*, Berkley and Los Angeles: University of California Press／クリフォード,ジェイムズ 2003(1988)『文化の窮状：二十世紀の民族誌、文学、芸術』(訳太田好信他)人文書院

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　１件）
① Watanabe, Fumi, The Network of Actions: On the Collectivity in the Vicinity of Red Wave Art. *People and Culture in Oceania*, 29: 51-68, 2014【査読有】

〔学会発表〕（計　　２件）
① 渡辺文、「人類学の想像」、日本文化人類学会関東地区研究懇談会（共催）、2015年1月17日、於慶應義塾大学（東京都港区）

② 渡辺文、「オセアニア島嶼域におけるアート領域の生成とその経緯」､慶應義塾大学文学部ポリローグ、2014年11月30日、於慶應義塾大学（東京都港区）

〔図書〕（計　　２件）
① 渡辺文、「見えるようになる――他者の生に触れる身がまえ」、佐藤知久・比嘉夏子・梶丸岳（編）『世界の手触り――フィールド哲学入門』ナカニシヤ出版、2015、4／277頁

② 渡辺文、『オセアニア芸術――レッド・ウェーヴの個と集合』、京都大学学術出版会、2014,326 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
　渡辺　文（WATANABE, Fumi）
　立命館大学・政策科学部・助教
　研究者番号：30714191

(2)研究分担者
　なし

(3)連携研究者
　なし